

都市形成における交通・河川との関係の把握と都市再生の研究

日本大学 学生会員 ○石井 雄三
日本大学 正会員 吉川 勝秀

1. はじめに

明治以前の主要交通網は水路が主流であった。その役割は明治以降鉄道・自動車道路へとシフトし、また都市の成長とともに交通は増加・拡大し、都市の河川水域と自然は段々とその姿を変え減少していった。本研究では荒川から以西の都心部までを対象とし、地図を主として用い、地形、交通、水域等の変移を調査し、河川の埋立て・暗渠と交通網および都市構造の変化を明らかにするとともに、都市と環境の都市再生について考察した。

2. 都市形成と河川の変遷

江戸時代から江戸・東京の都市形成における水空間との関係は深い。江戸初期から都市形成において運河の整備を行い、明治までこれら運河と河川が交通輸送路として利用された。この運河と河川は都市形成の骨格として近代の東京都市の基盤となった。

関東大震災後の都心部では、帝都復興計画により街路が整備され、河川と運河に加えて新たな社会基盤が追加された。その後、経済の高度成長期になると都内の交通量の増加、また河川の自然環境は悪化に伴う悪臭といった環境問題などが発生していった。昭和 36 (1961) 年当時の隅田川では川の汚染、悪臭などの理由から早慶レガッタの中止、花火大会を中止といったことがあった¹⁾。このような時代を経て、東京の河川・運河は図-1 に示すように消失した。

この河川・運河の消失を決定づけたものとして、表-1 に示した昭和 32 (1957) 年の都市高速道路に関する基本方針、同 36 年の河川と下水道の協定がある。

3. 都市形成と交通の変遷

明治後期に鉄道の整備が進められ、物流の主流は鉄道に替わった。その後の高度成長期を境に首都圏の自動車交通網は大きく躍進し物流の多くを占めるようになった。

道路についてみると、経済の高度成長期になって道路建設のために運河が使われ、河川や河岸の上空を道



図-1 明治期からの消失河川

表-1 河川に大きな影響を与えた決定・協定^{2),3)}

決定・協定	概要
東京都市計画都市高速道路に関する基本方針(建設省)(1957年)	①高速道路の有料制化 ②路線の選定にあたって、第一次的に河川と運河の使用し、やむをえない場合は広幅員道路とする ③一般街路交通と分離し、平面交差のない高架または橋梁式とする ④設計速度と車線数の決定
東京都市計画河川下水道調査特別委員会委員長報告『通称:下水道36答申』(1961年)	①荒川、目黒川、荒川、荒川など源頭水源を有しない14河川の一部または全部を暗渠化し、下水道幹線として利用する ②下水道幹線化する以外の区間についても、舟運などの理由からとくに必要な部分をのぞき覆蓋化する ③覆蓋化された上部については、できるかぎり公共的な利用を図ることとする ④暗渠化にあたっては、狩野川台風並みの降雨でも氾濫しない能力を与えることを原則とする

路で占用するようになった(図-2)。また、首都高速道路が河川を覆う(図-3)ことになった。この高速道路の整備は表-1 に記した基本方針、すなわち“既成市街地、特に首都中心部における自動車交通の輻輳を緩和し、一般道路の効率化を図るため、これらの一般街路と分離して、あらゆる交通機関と平面交叉をしない公共的都市高速道路を建設する”とし、“路線の選定にあたっては、市街地の土地利用を考慮し、家屋の密集地を避け、不利用地、治水利水上支障のない河川、運河、やむを得ざる場合には高幅員(40m)以上の道路

上に設置し、防火建築地帯の屋上の利用も考慮する”²⁾ するとして行われた。首都高速道路は都市内の交通問題を緩和するためのものとして建設されたが、その後国土開発幹線自動車道と結ばれたことにより、都市内に都心環状線の交通量の約 6 割をしめる通過交通を都心に引き入れている。

4. 河川の再生からの都市再生

上述のように、河川の埋め立てや暗渠化で多くの河川は消失した。その上は道路や公園などとなっている。近年では、これら消失した河川の再生、川からの都市再生が計画・実施され、あるいは議論されるようになっていく。河川の再生については図-4 のようなものが考えられる⁴⁾。道路撤去・河川の再生型のものは、韓国の清溪川や北京の転川、ドイツのケルン、デュッセルドルフ、といった例があり、日本の日本橋川でも討論がされるようになっていく。この道路撤去・河川再生型の都市再生が今後行われていくとよいであろう。

5. 結語

東京首都圏における都市形成と河川・運河の消失、鉄道・道路網の整備の実態とその時代背景を明らかにした。今後は世界各地で行われるようになり、日本でも一部議論がなされるようになった消失した河川の再生、それによる都市再生が行われていくとよいであろう。

参考文献

- 1] 川本昭雄：「隅田公園」 郷学舎、1981 年
- 2] 「都市の景観形成と首都高速道路」、日本文化会議、1984 年
- 3] 中村晋一郎・沖大幹：「36 答申における都市河川廃止までの経緯とその思想」 水工学論文集、第 53 巻、2009 年
- 4] 吉川勝秀：「流域都市論」 鹿島出版会、2008 年
- 5] 鈴木理生：「江戸・東京の川と水辺の事典」 柏書房、2003 年
- 6] 近藤和吉：「古地図・現代図で歩く 明治大正東京散歩」 人文社、2003 年

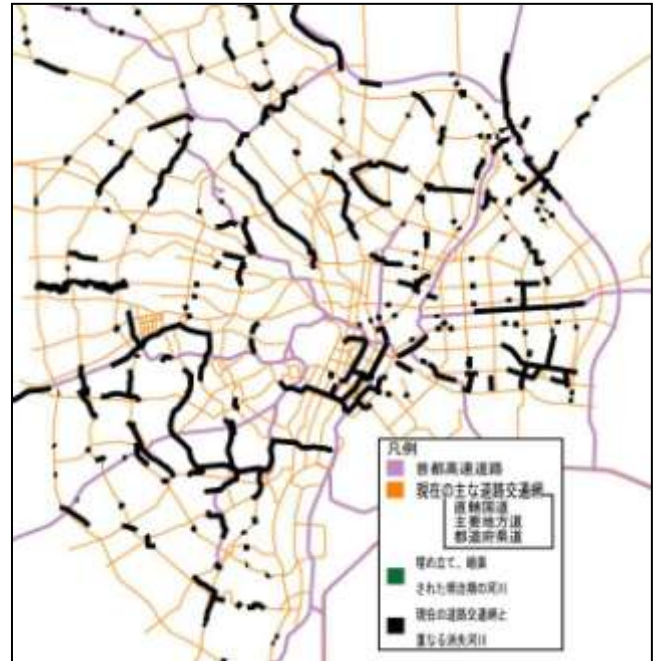


図-2 消失河川と現在の道路交通網

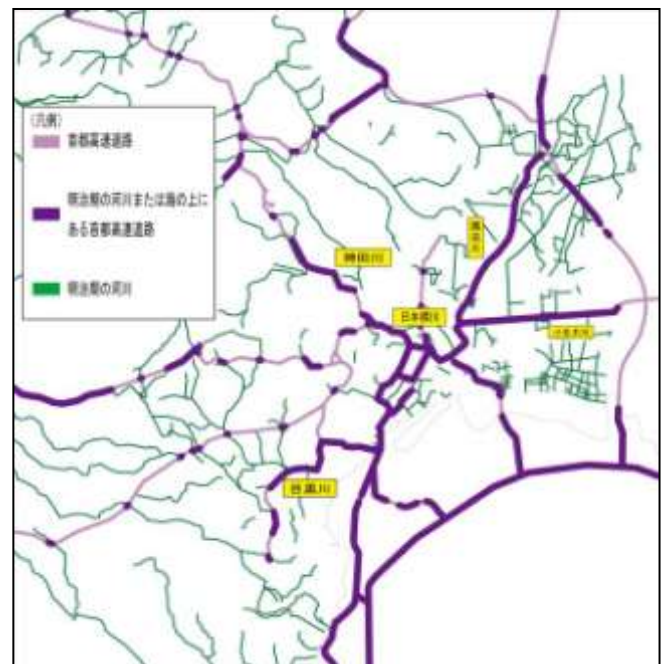


図-3 明治期の河川と首都高速道路

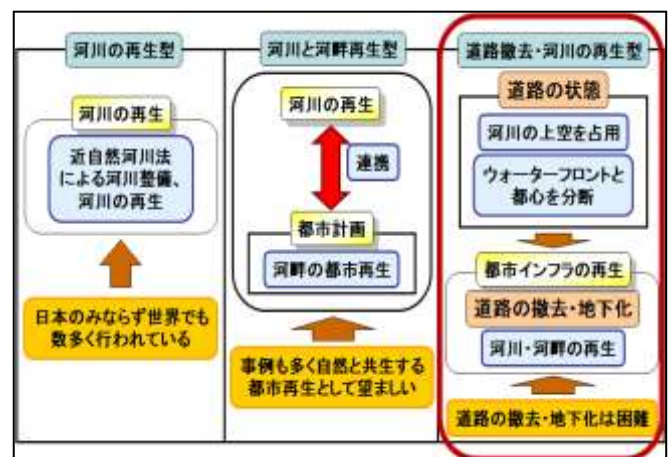


図-4 河川を活かした再生例